

---

## **参考資料 3 脱炭素先行地域の 「住民等の行動変容」取組事例**

---

# (参考) 脱炭素先行地域の「住民等の行動変容」取組事例①

阪神大物地域ゼロカーボンベースボールパーク整備計画  
～地域課題解決型！官民連携事業～  
(兵庫県尼崎市)

## <阪神タイガースファームにおける「ゼロカーボンベースボールパーク」の実現>

- 2025年3月に開業のゼロカーボンベースボールパークにおいて、小田南公園内や試合の中で脱炭素の取組を周知し、ゼロカーボンナイター（CO2フリー電気、バイオマス素材の活用、プラスチックリサイクルの強化）の開催等を予定
- 公共交通機関を利用した来場の呼びかけやEVバス・シェアサイクルの導入により、交通の脱炭素化と渋滞の緩和を進める



## <電子地域通貨「あま咲きコイン」の活用>

- 電子地域通貨「あま咲きコイン」を活用し、省エネ家電の買替、エコ活動（環境学習への参加、EVカーシェアの利用等）に対してポイント付与をすることで、消費活性化とエコ推進の両立、SDGsの取組みの加速化を進めている

脱炭素で磨き上げる都市の魅力  
～「行きたい」「住みたい」「安心できる」千葉市へ～  
(千葉県千葉市)

## <グリーン・MICEエリア大規模集客施設等でのナッジ施策の実施>

- 「ZOZOマリンスタジアム」や「幕張メッセ」等の大規模集客施設で行われるイベントにおいて、飲食で使用した割りばし等を回収し、バイオマス燃料として活用する取組みを実施
- 今後も、出演アーティストからの呼びかけや、SNSの活用による行動変容の推進を予定
  - Brew at the Zoo（令和5年10月14日、21-22日）：飲食で発生した割りばし及び串を回収。楽しみながらできる資源回収を目指し、割りばし等を投票券に見立てて、「一緒に写真を撮りたい動物投票」を実施



- X Games Chiba 2023（令和5年5月12-14日）：会場内外の飲食において発生した割りばし及び串（木製、竹製）をバイオマス資源として回収。割りばしの一部を活用し、キャンプ事業者と共同で製作した「花炭体験キット」を、市内のキャンプ場（small planet CAMP&GRILL、千葉ウシノヒロバ）で配布

# (参考) 脱炭素先行地域の「住民等の行動変容」取組事例②

京都の文化・暮らしの脱炭素化で地域力を向上させる  
 ゼロカーボン古都モデル  
 (京都府京都市)

## ＜大学等との連携による先行地域をフィールドとしたローカルグリーン人材育成＞

- 先行地域をフィールドに、学びを通じ、**脱炭素型ライフスタイルへの行動変容を進め、社会や地域等での脱炭素の取組を牽引するグリーン人材の育成**を目指す。さらに、グリーン人材育成拠点の脱炭素化に向け、大学のキャンパスの屋根等に太陽光発電を最大限設置するほか、蓄電池の併設や再エネ調達により脱炭素転換に取り組む。
  - **学生・地域企業等の行動変容**：太陽光発電施設を導入するグリーン人材育成拠点をフィールドに、**理解醸成と行動変容につながるイベントや講座**などを企画
  - **修学旅行での行動変容**：脱炭素転換した寺社・大学等をEVタクシーで巡る修学旅行を探究学習プログラムとして企画



龍谷大学  
 サステナビリティDays

デジタルを活用した「会津若松モデル」による  
 ゼロカーボンシティ会津若松の実現  
 (会津若松市・福島県)

## ＜デジタル地域通貨「会津コイン」の導入と「環境価値の地域循環サービス」の連携＞

- デジタル田園都市国家構想推進交付金により実装された**デジタル地域通貨「会津コイン」**を「**地域通貨アプリ**」と連動させ、**再エネ電力の決済手段としての活用、省エネ家電の購入、ごみ減量**など脱炭素に資する行動に対するインセンティブを高めることで、市民や事業者の行動変容を促進
- **家庭への電力需要や発電量の可視化センサー（スマートメーター）**の設置を行い、「**電力見える化アプリ**」と連動させることで、「**どのような機器を利用すると電力需要が増加するのか**」の体験をしてもらい、**省エネ行動**を促す
- 施策間連携により、地域内での資金とデータの循環を可能とすることで、脱炭素化とともに、高付加価値のビジネスモデル構築の同時実現を目指す



# (参考) 脱炭素先行地域の「住民等の行動変容」取組事例③

再生可能エネルギーを活用したゼロカーボン防災型まちづくり  
～カルテを使った住民と創る町全域の脱炭素計画～  
(高知県黒潮町)

## <町内全戸の「脱炭素カルテ」作成による各家庭に合った省エネ・再エネ設備導入>

- 南海トラフ巨大地震による最大津波浸水想定区域の全世帯を対象とした「戸別津波避難カルテ」を作成した経験・ノウハウを生かし、「脱炭素カルテ」を全世帯（5,380戸）で作成し、各家庭に合った省エネ・再エネ設備の導入を促進
- 「脱炭素カルテ」は、戸別に繰り返し訪問して直接コミュニケーションをとることで、事業説明、ニーズおよび現状の把握、周知啓発、支援の案内、効果測定及びアフターフォローなど総合的なソフト対策として実施するものである
- 脱炭素カルテ実施により町民全員が再エネや省エネに関心を持つようになり、地元産の再エネの購入に繋がり、地域の資源を活用して地域が消費する地域経済循環に繋がっていくことを期待【↓脱炭素カルテのイメージ図】

No.	行政区	氏名	生年月日	備考	③照明設備のLED化	未	一部済	完了
世帯構成					④ZEH化の状況			
世帯		黒潮 太郎	S40.5.2	会社員	未	一部済	完了	
		黒潮 花子	S46.11.1	専業主婦	未	一部済	完了	
		黒潮 勝男	H26.3.8	学生	未	一部済	完了	
連絡先： 090-4234-5678 (太郎さん携帯)					削減可能なポイント を把握 ⇒次回訪問時に説明			
再エネ利用	再エネ利用	電気使用量 (年間)	5,357 kWh/年	0%				
選別所	入野小学校	津波浸水	有	無				
①電化製品使用状況					④省エネポイント			
冷蔵庫	三菱_470L (MR-A332K)	396 kWh/年	R5.6.3 事業説明 (あまり話を聞いてもらえなかった)					
エアコン	ダイキン_10畳 (BC22BR-S)	899 kWh/年	R5.8.20 再度訪問、電気料金高騰の話。省エネに興味を持つようになった様子					
洗濯機	SHARP_12kg (LX129BL)	418 kWh/年	R5.11.15 ご本人より、町の省エネ家電購入補助についての問い合わせ有					
テレビ	SONY_55 (BRAVIA)	293 kWh/年						
②自家用車保有状況					⑤再エネ設備の導入			
VOXY_TOYOTA		685 L/年	繰り返しの訪問により、 行動変容に繋げる					
TanT_HONDA		318 L/年						

109万市民の"日常"を脱炭素化 ～「働く人」「暮らす人」「訪れる人」が豊かな時間を過ごせる"新たな杜の都"～  
(宮城県仙台市)

## <各エリアで東北大学の知見を活用しながら、行動変容施策を展開>

- <定禅寺通エリア（働く・集う場所）：業務ビル脱炭素リノベーション、ZEB改修体験会・普及啓発セミナー開催>
  - 既存テナントビルのZEB改修等を進めるほか、低層階リノベーションの独自支援を実施。また、現場体験会及び普及啓発セミナーを通してビルオーナーの意識啓発と、地元事業者の技術力・競争力向上を図る
- <泉パークタウンエリア（暮らす場所）：既存住区 DR/VPP実施>
  - 市内最大の住宅地である泉パークタウンエリアでは、太陽光発電・蓄電池に加え、設備を自動制御するDR/VPPによるエネルギーマネジメントシステムを導入し、住民の行動変容を促す
- <東部沿岸エリア（学ぶ・楽しむ場所）：脱炭素モビリティ体験提供>
  - 公共交通空白地域の東部沿岸エリアに EVカーシェア・電動シェアサイクルを導入し、デジタルマップに当該モビリティ情報を掲載して利用を図り、学ぶ・楽しむために当該地域を「訪れる人」の周遊を促進する

